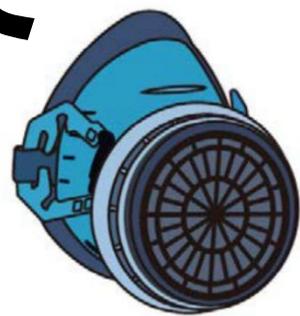


マスクで 守る



保護具は、作業者の健康を守る最後の砦です。物質の有害性と性質、健康障害を起こすばく露ルート等をふまえて、適切なものを選びましょう。ばく露を防止するためには、顔の大きさにあうものを選び、正しい装着をすることが大切です。

着用の3ポイント

面体と顔の間に
タオル等を挟んで
使用しない

ひげ、もみあげ、髪
が面体と顔面の間に入り込む、排気弁を妨害
する状態で使用しない

ヘルメットの上から
しめひもを
使用しない



汗や蒸れが気になる方は、特に**電動ファン付き呼吸用保護具**を使用しましょう。暑さや蒸れだけでなく、呼吸の負担感が軽減されることが明らかになっています。性能も高く漏れ率が通常の防じんマスク24.8%に対し、0.45%であったデータもあります。(※)

(※) 令和3年3月 電動ファン付き保護具の実用性並びに普及に関する研究

吸入時には、マスク内が陰圧（マイナス圧）になり、顔面と面体との接触面から漏れが生じやすいため、マスク面体と顔との間に隙間がなく、顔に合うものを選定しましょう。使用前にフィットチェックをして、密着性を確認することが大切です。

フィットチェック

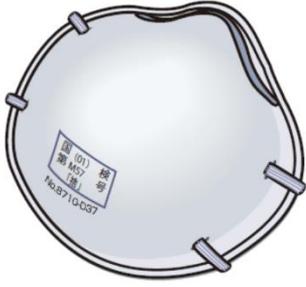
① 陰圧法

マスクの給気口を手でおおって、ゆっくり息を吸い込んだ時に、面体が吸いよせられる、あるいは息が苦しければ、隙間（漏れ）が少なく、良好です。吸いよせられない場合には、面体の位置やしめひもの強さを調整しなおしましょう。

② 陽圧法

マスクの給気口を手でおおって、息を吐いたときに、面体からの漏れがなく、マスクが膨張するかどうかを確認しましょう。





マスクに損傷等がないか確認しましょう

吸気弁、面体、排気弁、しめひもなどに破損、き裂、変形などがないことを確認しましょう。使用限度時間に達する前であっても、息苦しさを感ずる場合や著しい型くずれを生じた場合には、これを廃棄し、新しいものと交換しましょう。

交換基準 早見表

	破損、損傷、亀裂	穴あき	著しい変形	使用限度時間到達	粘着性	弾性損失	使用時間の極端減	充電不可
ろ過材	●	●	●	●				
吸収缶	●		●	●				
呼吸用インタフェース	●		●		●			
吸気弁	●		●		●			
排気弁	●		●		●			
しめひも	●					●		
電動ファン本体、部品	●		●					
充電式の電池	●						●	●

使用後は適切に保管しましょう

- 使用後の防じんマスクは、汚れたままにしないようにしましょう。
- 使用後の防じんマスクは、粉じん作業場に放置せず、清潔な場所に保管するようにしましょう。

使用済みのろ過材等は、粉じん等が再飛散しないように容器や袋に入れて捨てましょう。



通達「防じんマスク、防毒マスク及び電動ファン付き呼吸用保護具の選択、使用等について」はこちら

